

# 認知症センター方式の実践活用に向けた EDEC プロジェクトの実施

特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構  
〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階

## 助成事業の概要

本事業は、介護サービス従事者等を対象に認知症センター方式の習得機会を確保し、介護現場での継続的な活用に向けた支援を行うことを目指した。11月4日と12月9日の2日間、認知症ケア地域推進員のペホス氏を講師として、センター方式基礎研修を開催した。参加者21人、うち19人が2日間の研修を終了した。

修了者のフォローと介護サービス関係者へのセンター方式への関心喚起に向けて、以下の2つの研修を開催した。12月13日(木)にセンター方式基礎研修修了者による活用事例の発表と佛敎大学永和良之助氏によるサービスの質の向上と第三者評価に係る講演会を開催した。参加者は35人だった。3月1日(金)には関西福祉科学大学都村尚子氏によるバリデーションに係る講演会を開催した。参加者は83人だった。

## 事業の成果

EDEC プロジェクトは、EDUCATION・DISCUSS・EXPRESS・CONNECTの略称である。このうち、事業助成の対象となるセンター方式基礎研修の開催と、実践事例の発表によるセンター方式の周知・啓発に関して概ね目標を達成できた。基礎研修の参加者は予定より少ないものの、ケアマネジャーのみに偏らず多様な職種が参加した。またフォローアップ研修の機会を複数回用意し、センター方式の実践状況を多数の専門職に向けて発表した。修了者のOB会として「認

知症センター方式を活かす会」を結成し、ニュースレターの発行を通じて、センター方式の継続に向けて働きかけた。

関連団体との連携も概ね目標を達成できた。センター方式基礎研修の開催時は、兵庫県介護支援専門員協会姫路支部と連携した。姫路市長寿・介護保険課、地域包括支援センター等とも定期的に会議を開催して本プロジェクトの進捗状況を適時報告し、必要な意見・助言を得ることができた。

本事業の課題として以下の事項が挙げられる。認知症センター方式基礎研修をより多く受講できるよう積極的な広報・啓発が必要であった。フォローアップ研修に関しては、事例発表者が限定されたことと発表資料のまとめに際して十分なフォローができなかった点が課題として残る。さらに修了者への継続的な情報提供に加えて、修了者の関係するケアチーム構成員に対しても理解の浸透を進め、効果的に活用できるよう直接的な介入やサポートが必要であった。

以下は参加者の感想の一部である。

・「介護者側の視点を無意識のうちに重視して、本人本位のケアができてなかったことに気づかされました。」

・「24時間シートを作成して、利用者の声やその時の行動・原因などが把握できた。」

・「他職員と協力して作り上げることにより、それぞれの視点での気づきが見られ、情報の共有にも役立ちました。」

・「ケアの見直しと気づきを必要とすること、我々のチーム力向上にセンター方式の活用が役立つ

つことがわかりました。事業所にうまく取り込めるよう努力します。」

## ■ 成果の広報、公表

当機構の会員に対して年数回の広報誌の発行を通じて成果を公表した。また当機構のホームページ上に EDEC プロジェクトの概要と事業報告ファイルを掲載して、不特定多数へ公表している。認知症センター方式基礎研修の修了者に対しては、修了者 OB 会である「センター方式を活かす会」の広報誌の発行を通じて成果を報告した。さらに第三者評価や認知症サポーター講座、キャラバンメイト研修等、当機構の事業活動においても、折に触れてセンター方式の活用促進に向けた取り組みを紹介した。その他、官民協働の政策立案組織である姫路市・介護サービス改善協議会を通じて、行政・介護専門職団体に対して当事業に実施報告を行った。

## ■ 今後の展開

センター方式がより広範囲・継続的に活用されるためには、修了者個人への支援に加えて介護サービス事業所への周知・啓発が不可欠である。特に日常的に認知症の方と接している地域密着型サービス事業所ではセンター方式へのニーズが高く、実際に事業所として導入している所も増えている。そのため、センター方式を活用した事業所の導入方法や成功事例をまとめ、組織的な活用手順を啓発していくことが求められる。